

脳神経センター長からの一言 vol.3

チャレンジングでありたい

「それは難しい」は、英語では it is difficult ではなくて it is challenging というのだと、米国留学が長い人に聞いたことがあります。チャレンジング (challenging) というと、難しいことに挑戦しよう (チャレンジしよう) という感じが出て、いいですね。

35 年間務めた九州大学病院から福岡中央病院に異動した当初は、その落差に驚きました。九州大学病院は、日本の国立大学病院でもトップクラスの 1275 床の病床数を誇り、北棟、南棟、外来棟も建てられたばかりの最新のものに入って私は診療をしてきました。一方、福岡中央病院は、総合病院とはいえ 200 床に満たず、建物は築 50 年を越えています。福岡逡信病院から福岡中央病院に経営が代わって、建物の内装はずいぶんきれいになって、本当によかったと思います。でも病室は個室が少なく、大部屋のアメニティ (居心地) も新しく建てられた病院には及びません。

病院を受診しようとするときには、病院の内部の人のことまでは一般の方はなかなかわからないでしょうから、やはり病院の建物の立派さで選ぶことが多いと思います。大きな立派な病院には、いい医師やいいスタッフが働いていそうな気がします。九州大学病院でも建物が新築されて患者数が大幅に増えましたから、どこの病院でも建物が新しくなって豪華になると、中で働いている医師は変わらなくても患者数は増えます。これは自然なことで、建物で選ぶという例ですね。一方、この先生に診てもらいたいという思いで、主治医が病院を異動すると、異動先の病院まで患者さまが付いていく場合があります。これは人で選ぶという事例になります。

私は九州大学病院では多くの神経難病の患者さまを再来で診ていましたが、こちらに異動するときに、いっしょに付いて来られた方は少数です。こちらは大学病院に比べると小さい病院なので、いざ悪くなったときにきちんと診てもらえるのか心配された方も多いと思います。しかし、実際には九州大学病院が新型コロナウイルス感染症の流行のために脳神経内科の入院受け入れ患者数が半減した時には、急に悪くなった神経難病の患者さまを九州大学病院脳神経内科から紹介されて、当院にたくさん受け入れて入院治療にあたってきました。福岡中央病院は小さいといっても総合病院なので、いろいろな診療科の専門の

先生がおられます。脳・神経以外の臓器の合併症が起こった場合でも、すぐに対処してもらえます。特に内科系は、循環器、消化器、リウマチ膠原病、糖尿病・代謝内分泌、感染症、心療内科など様々な分野の専門家が充実しています。九州大学病院や福岡大学病院で研鑽を積まれた方ばかりなので、安心できます。小回りのきく病院なので、困ったときはすぐに他の診療科の先生に相談できます。このような院内連携のし易さは、大学病院とは違う、とてもいい点です。

当院の脳神経センターは開設して1年目ですが、脳神経内科としては2年目になります。脳神経内科の1年目は専門医2名体制でしたが、2年目の今年は、私も含めて常勤の日本神経学会認定脳神経内科専門医が6名、非常勤で主に臨床神経生理検査をしていただいている専門医が2名と、合計8名の脳神経内科専門医が診療にあたっています。大学病院以外では福岡市内で一番充実しています。脳神経内科専門外来は、月曜日から土曜日まで交代で午前・午後とも行っています。脳神経内科の外来患者数も2年目は1年目の2.5倍くらいに増えました。入院患者数も1年目は18から19名程度でしたが、2年目は32から35名程度まで増えています。

今はどこの病院も新型コロナウイルス感染症への対応で大変な状況です。

当院では疑わしい患者さまは、別ルートに分けて発熱外来で診療しています。PCR検査で陽性の場合、当院では入院の受け入れをしておらず、他院をご紹介するようにしています。脳神経内科からも発熱外来の担当医を出して対応にあたっています。

私自身も発熱があつて神経症状がある方の診療を、防護服を着てすることがあります。防護服を着て全身の神経学的診察をするのは、本当に大変です。幸い当院ではクラスターの発生は今のところありません。今は感染症の専門家だけでなく、全科の医師が新型コロナウイルス感染の対応にあたらねばならない時と思っています。私自身も含めて電話診療にも対応していますので、患者さまには必要な受診を控えることがないようお願いしたいと思います。

当院は脳神経内科を開設してまだ2年目なので、脳神経内科のことは一般の方にも医師の間にもまだあまり知られていないと思います。常勤の脳神経内科専門医の数からすると、もっと多くの患者さまを受け入れることができます。数年後には当院も新しい建物に建て替わると聞いていますが、それまで古い建物で患者さまを増やしていくのは並大抵のことではありません。建物で選ばれるということはありませんから、そこで働く人で選ばれるしかありません。人で選ばれるには、医師もスタッフも温かい心で最新の医療を提供するのが唯一の道です。あわただしい病院ではありませんから、丁寧に診察してわかりやすくご説明することを心がけています。最新の医療情報をよく勉強して、民間病院ですが今ベストの治療を提供できるようにしています。

新しい建物になって患者さまが増えるのは当たり前ですが、この古い建物であっても患者さまに選ばれるようでありたいと思います。新しい建物になるまで、まさにチャレンジングと思って、日々診療に取り組んでいます。

2021年2月

福岡中央病院脳神経センター長 吉良潤一